

かけはし



～多様性が求められる時代へ～



未来に続く道をイメージして

- P2.3 多様性のベースを育てる未来思考の子育て
- P4.5 日本社会に根付く“女性性”への期待
- P6.7 幸せって何だろう？

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウイズ」

〒522-0041 彦根市平田町670

TEL/FAX 0749-24-3529

E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】 フタバアオイ、John Depp、
Niko×2

【表紙 写真】 村田 大河

多様性のベースを育てる未来思考の子育て

男女共同参画ってなんだろう？と調べるうち、気になるワードを発見！

「アンコンシャスバイアス」=無意識の偏見、無意識の思い込み

自分自身では気づかないモノの見方や捉え方、無意識に対象を〇〇と決めつけてしまうことがある。

(例)

- ・女性は気遣いが上手
- ・男は家族を養って一人前
- ・高齢者はパソコンが苦手
- ・外国人は時間にルーズ
- ・ゆとり世代はガッツがない

なるほど！確かに「みんながみんなそうではない」ということは頭では分かっているが、社会一般的には「フツーさだよね」と、ひとくくりにしてしまうことがある。

はじめて知ることば…



無意識に「フツー」じゃないと感じる人を排除したり、また自分がその「フツー」と違うときには自らを否定することにもつながったりする。「フツー」という意識やそこから生まれる差別意識にさらされることなく、自分らしい生き方が尊重され、ひとりひとりが生きやすい社会をつくるため、これからは「多様な生き方を認め合える」意識づくり、ベースづくりが大切である。

そんなとき、5歳の娘との何気ない会話でハッとすることが…

- 私 「かわいいものと、カッコいいものどっちが好き？」
娘 「女の子だからかわいいものが好きやもん」
私 「えーかわいいもの好きな男の子も、カッコいいもの好きな女の子もいるよー」

女の子…男の子…

ジェンダー意識？

(娘と私がおでかけすることになった休日)

- 娘 「ママ、パパのご飯用意していなくていいの？」
私 「パパなら、ご飯の用意は自分でなんとかできるし、ご飯作るのが得意なお父さんだっているよー」

パパ…ママ…

性別役割分担意識？

そんなつもりじゃなかったけど…



まだ幼くても社会の一員となり、幼児期から育ち始める「フツー」という意識、そこからの差別意識が意図せず、次世代へ継承されるベースが、実は身近な家庭や地域、幼稚園や保育園、学校といったところにあるのかもしれない。

まずは家庭から、今から見直せるところはないか？意識してみることにした。

我が家では、子育てにおけるステージの変化と子育てとの両立ができる私の職場が見つかったことをきっかけに、少しずつ家事分担を変え始めている。分担は性別で固定されるものではなく、得意不得意や状況によって「ちょうどいい」を見つける。「だから、こういう役割分担なのね」、「家族によって違うんだね」と子どもが理解できるもの、それなら応用が効く。

子どもにもできることはさせて、私とパートナーの転職や介護に備えるため、それぞれの自立のためにも柔軟に変化できることが今後の我が家の役に立ちそうである。

そうじが得意



そうは言っても、家庭や友達関係だけでは多様性は認識しづらいのではないか…

何気ない家庭での会話で、親だけでなく祖父母との会話などから、子どもたちは「フツー」を受け継いでしまう。

また、生活水準が似通った友達同士、他の家族との交流だけでは、多様な環境や生き方があることに気づけず、仲間内で同調する中で、より濃い「フツー」が無意識に定着し、子どもは多様性を認めにくくなるのではないだろうか。



すでに多様性は存在している。認め合えるベースかどうかが課題。

好きなもの、夢中になるもの、得意なこと、苦手なこと、みんなバラバラ。子どもも大人もひとりひとり生き方は違っていて、過去・現代の社会から生まれた「フツー」、無自覚に育つ「フツー」そんな「フツー」に当てはまらないものはすでにたくさんある。

まずは、家庭や職場などの人々と接する中で自分も変わってみよう。

地域の身近なところで 多様な人に出会ってみる

新しいことを生み出す人、まわりを気にせず自分を貫く人、思ってもみないようなことをする人多様な人に出会ってみる。

「こんな生き方もありなんだ！」



自分の中にある多様性を 引き出してみる

もしも自分が、これをやったら恥ずかしいな…失敗するかな…笑われるかな…と「フツー」からはみ出さないよう、しまいこんでいるものを引き出してみる。

★「フツー」にとらわれなくて実践していることを身近な大人に聞いてみた！

「主人」「ダンナ」というのに抵抗があって、友人との会話では下の名前で「〇〇君」と呼んでいるけど、職場とかでは曖昧にしてきた。でも、やっぱりそれは自分らしくないなあと思い、今では職場でも同様に「〇〇君」と言っている。たぶん、非常識な人って思われてるだろうな。

(昭和生まれのシニア前半さん)

家族の朝ごはんは作らない。子どもも青年になり、食事時間もバラバラで、それぞれが自分のペースで動くため、各自で朝食を作り食べる。日頃は親戚づきあいの中で長男の妻として波風立てないよう仮面をかぶっているけれど。

(子育て卒業世代さん)

今すぐできる ことのヒント

- 小さなことから「フツー」をやめてみる
- まだまだ周囲の目を気にしながらだけど、やってみる
- 「フツーは…」ってなるべく言わないようにする

「アンコンシャスバイアス」が幼少期から無自覚に育つ、という視点から、日常生活の中で「フツー」をあえて意識し、家族の役割分担や子どもとの接し方を見直してみる。

それは、今と未来のために、多様性を認め合えるベースを耕す現役子育て世代にとって、子どもと関わるあらゆる人にとって、地味に見えるがとっても大切な役割だと思う。



編集委員から一言

今まで意識したことのない無意識について考える機会を得ることで、働き方や日々の暮らしを見直すことができました。自分次第で、働き方や暮らし方を、より自分らしく変えることもでき、その姿を通して子どもたちに未来へつなげるメッセージを伝えていこうと思います。

<フタバアオイ>

日本社会に根付く“女性性”への期待

女性だから…

世の中の、「こうでなければならぬ」または、「こうあった方がよい」「こうあることが望ましい」といった社会規範による性差別には根強いものがあります。

特に“女性性”[※]への「期待されること」は“男性性”[※]のそれと比べて、比較にならないほど負担の強いものです。



「期待されること」について、多くの人々の意識に潜在的に入り込んでいるため、人々は、それを社会規範による性差別だと気付いていないことがあります。そして地方ではその傾向がより強いことは、注目すべき点です。

次の例は、それが無意識のうちに性差別を生み出している要因の一つとして挙げました。皆さんの考える機会になればうれしいです。

高校生まで、つまり18歳までは、校則により生徒は化粧を校則違反としてしているところも多く、髪を染めることや、マニキュアを塗ることも許されていません。

そのような行動をすればすぐに指導が入ることになります。

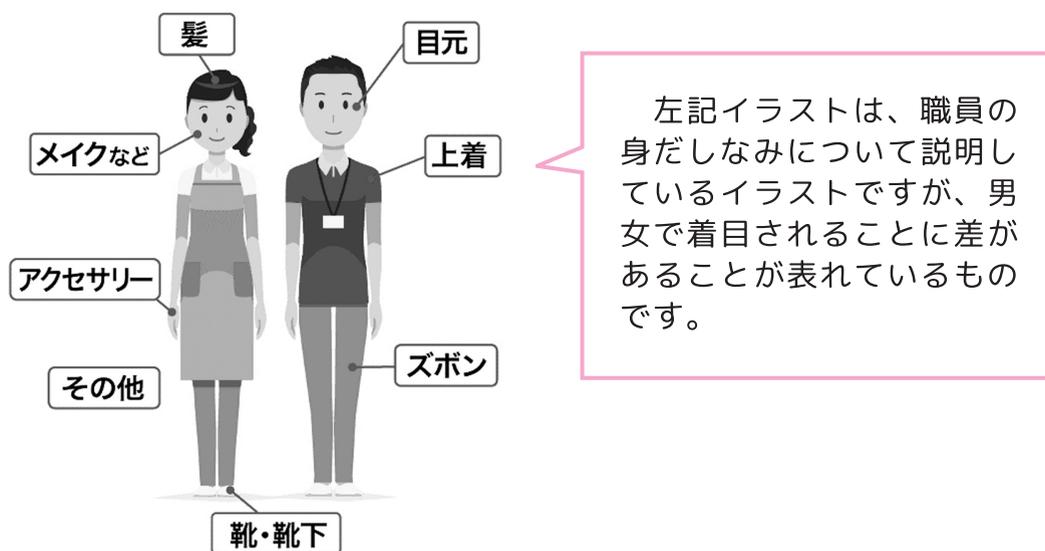
ところが卒業後、進学したり就職したり社会に出てみると、特に女性は髪を染め、化粧をし、爪の手入れをし、脱毛し、身だしなみを整えることを「期待される」のです。

校則のようにルールとして書いてあるわけではありませんが、広告やTVのコマーシャル・就職活動のガイダンスに書かれています。多くの人は、女性がオシャレに（化粧など）気を配る事が良いことであると思い、それを期待し、そうあるべきだと無意識のうちに思いこんでしまうようです。

これは潜在的な刷り込みとして広がっていることです。

「100%自分のため」に化粧をしているといえる人は、あまりいないのではないのでしょうか。多くの人は「自分以外のことがらのため」に化粧をしたり爪の手入れをしたり脱毛したりしているのではないのでしょうか。

本当の意味で自分がしたくて化粧をしているのではない人もいます。自分以外の何かのために化粧をしているのであれば、それはもはや自由とは言えません。“期待”と言う名にしばられていると思うのです。



これまで挙げた例は、この日本社会に蔓延している、変えていくべき価値観のほんの一部にすぎません。

“女性性”に期待されることがらのように、社会が当然だと思っていて意識せず、問題として上がってこないことがらは、まだ数多く存在します。結婚のこと、出産のこと、子育てのこと、生理のことなど。“女性性”は男性のためのものではないのです。

社会の状況は日々、変化しています。身だしなみとしての服装や化粧をすることを自由に選べる時代を私たち自身で作っていくことが大切です。本当の意味で多様性が認められる時代が来ることを祈って。

※女性性、男性性とは

肉体的な性別とは別に、心理的、精神的な部分における「男性らしさ」や「女性らしさ」のことを指します。

編集委員から一言

私が女性と男性との格差についてよく知っていて、いつも考えているということではありません。多くの男性が知ろうとせず、考えていないのではないかと思います、そのきっかけになるように記事にしました。

<John Depp>

子育てとは？ ～子育てとは自分育てだった～

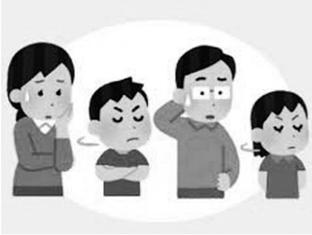
自分でも気づかない心の奥を子どもは気づかせてくれます。
特に自分では見たくないものや嫌な部分を洗いざらい見せてくれます。
子どもは、私の先生でした。

私は、子どもを育てることの何の知識もないまま子どもを産みました。何もわかりませんでした。

それでも親が育ててくれた様に、私も子どもに愛情を注いで育てたつもりでいました。

幼児期まではそれでもよかったです、
途中で気付きました。

子どもを自分の思い通りに育つように子育てしていることに。



私の気に入るように育ててほしいと思っている…。
子どもと一緒に遊ぼうと思うとどのように遊んだらいいのかわかりませんでした。
自分の満たされない思いを子どもに託しているだけで、子どもとの関係を育めない自分がいました。

そして、思春期を迎えた子どもは、高校受験と反抗期、コロナ禍の自粛が重なり、気力がとても低くなりました。また、夫は単身赴任中でした。

子どものすべての鬱憤のはけ口は私に向けられました…2か月は耐えられましたが、3か月目に私は壊れました。何もやる気が起こらないようになりました。

子どもは、一日中ピストルの銃音が鳴り響くゲームをしていました。
私は子どもと話す気力もなくなっていました。
子どもの暴言は酷くなり、私に対して「生きてる価値ない奴」などと言うことや、リビングには食べた後の皿や袋など食べ散らかし、服は脱ぎ散らかすこともありました。
少しでも忠告をしたら開き直られ、まったくコミュニケーションが取れなくなっていました。

今の私は、自分を生きていないため心が悲鳴を上げています。
自分をこのまま埋もれさせていいのでしょうか。
聴いてもらえなかった、理解（分かって）してもらえなかった負の感情が自分の中に残っています。

何が間違っていたのか考えたとき、私の自分自身とのコミュニケーション不足が原因だったことに気付きました。いつも自分をないがしろにしていた結果だったのです。

いつも自分にどんな言葉を投げかけているか、どんな会話を自分としているかで現実が変わってくるということを子どもが気づかせてくれました。

~ここでこんな疑問がでてきました~



幸せって何だろう？

〇〇すべきという固定概念、自分の普通、地域社会の普通、国の普通を見直さない限り永遠に問題は起き続けるのではないのでしょうか。

- ・「幸せ」はすでに自分の中にあります。
- ・本当の自分は、浮き沈みがなく心がフラットな時です。
- ・期待や価値観のすべてを見直し、軽くしよう。

ほんとうの幸せを問いたかった訳は…

- * 幸せ、豊かさがどういうものかを追求したかったことと、幸せや豊かさは、実は目の前や側にあるのに、どうしても自分の内にあるものと思えず、自分の外にあると思ってしまったためです。
- * この世は、みんな安心、安全で豊かだと解かることが大切なのではないのでしょうか？そのため次の三つのことを実行したいと思います。



ジャッジしない
他者と比べない
自分を大切にする



人生は、他人も自分も、「あるがままでいいんだよ。」と思えることが、大切だと感じました。

私の経験がみなさんの「幸せ」について、自分に問いかけてみる
きっかけになればうれしく思います。

編集委員から一言

この度は、編集委員になり、改めて自分の思いを書くことにより思考の整理ができました。これから気持ちを新たに歩めそうです。いい機会を得ることができました。

<Niko×2>

かけはし編集後記

彦根市男女共同参画社会づくり広報誌かけはしは、平成5年に第1号を発行後、27年を経過し、この度第40号を発行することとなりました。

これまで、市民公募による編集委員が、身近な地域や家庭等に根付く男女共同参画に関する諸問題を探求し、取材や座談会を通して、また、編集委員の体験や日ごろの活動の中から課題を捉え記事を編集し、市民の皆様提供することにより男女共同参画社会の推進に努めてまいりました。

今年度のかけはし編集にあたっては、新型コロナウイルス禍において取材活動や座談会の開催は叶わず、編集会議も十分な回数を開催することができない結果となりました。

そのような中で、市民公募による編集委員3人が、それぞれの体験や日常生活の中から日頃感じていること、考えていることを中心に、記事を編集することとしました。

「多様性が求められる時代へ」をテーマに、身近な日常に潜む無意識の偏見や思い込みについて考え、「フツー」を問い直すこと、性別への期待について、女性への期待と男性への期待の違いを認識し、どのような有り様も認められる社会の必要性についてまとめました。

また、編集委員の体験から、人生において、自分自身を見つめ直すことが大切であるという視点から、それぞれの人々の「幸せ」について、問いかける内容となりました。

今後も、だれもがあらのままに生き生きと生きられる男女共同参画社会実現に向けて、読者の皆様と共に行動につながるものとなるよう、充実した誌面作りに努めてまいります。

〈ウイズ事務局〉

ウイズ相談室のご案内

総合相談

女性、男性を問わず、心の悩み、夫婦・家族関係、職場の人間関係（セクハラなど）、子どもに関する事など、さまざまな相談に応じます。

水・木・金 13:00～16:00

（最終受付は 15:30 まで）

祝日（休館日）は行っておりません。

* 面接相談

* 電話相談

専門相談（こころの悩み・法律相談）

毎月第1月曜日：こころの悩み相談

臨床心理士

毎月第4月曜日：法律相談

弁護士

※専門相談（法律・こころの悩み）は、総合相談の後に専門相談を必要とする場合のみ予約ができます。

係争中の案件や担当弁護士と利害関係にある人の相談は受付できない場合があります。

専用ダイヤル 0749-21-5757

☆相談は無料です。プライバシーは守られます。☆